

Ed.ベンだより



〒 242-0007 大和中央林間 3-16-12 グリーンコーポ中央林間 107

電話 / Fax 046-272-8980 Email: toiwase@edventure.jp URL http://edventure.jp/

叱られる / 叱られた

子どもに大人が叱られるクイズ番組がはやっているようだ。答えにもたもたしていると「ポーッと生きてんじゃねえよ！」と活が飛ぶ。思わず苦笑いしてしまう。大人が子どもに叱られるシチュエーションが受けているようで、結構人気のようだ。そうさ！子どもが大人を叱ったっていいじゃないか。叱られたら素直に反省しなさいと普段から言っているんだから。

しかし、今回ばかりは叱られて苦笑い・・・というわけにはいかなかった。国連の「環境行動サミット」でのグreta・トゥーンベリさんの演説である。演説と言うよりも、明らかに確たる要求の言葉である。「大人としての責任を果たせ！」と。

スウェーデン出身環境活動家グreta・トゥーンベリさん（16歳）

彼女は言う。「あなたたちを注視している。私たちを失望させる選択をすれば、決して許さない。」「全てが間違っている。私はここにいるべきではない。海の向こうの学校に戻るべきだ。」「世界は目覚めつつある。そして、変化は起きつつある。あなたたちが好むと好まざるに関わらず。」そして、各国首脳に対し、具体的データを挙げて、科学者の言葉に耳を傾け行動するよう呼びかけた。

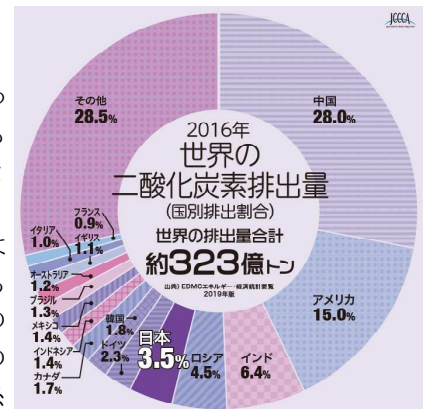
一人で環境保護運動に取り組み始めた彼女の言葉は鋭い。その鋭さは、その言葉が実は誰も反論できない「事実」であることを意味している。そしてその事実は、大人たちの誰もが認めながらも、誰もが忘れようとして、あまりはっきりと口にしてこなかった「不都合な事実」でもある。

そうすると、「ポーッと生きてんじゃねえよ！」どころではない。面と向かって言われた真実に対し、苦笑いでは収まらない。反論できない事実であるだけに、いわれのない攻撃の言葉が、その後彼女に向けられた。環境ヒステリー、判断のつかない子どもを国際会議の場に引き出すな、裏で大人が糸を引いている、おまえが乗ってきた船も石油で作られているんだ・・・！まあ、それこそ理性を疑いたくなるような言葉がネット上に踊った。極めつけは、アメリカのフォックステレビでは、有識者が差別的な言葉を彼女に向け、テレビ会社は謝罪、発言者はテレビから姿を消すこととなった。真実を受け入れたくない、真実を認めたくないという心情を持つ勢力は意外と多いようで、彼女の要求を静かに聞き入れるよりも、過剰に攻撃し、都合の悪いことは黙殺しなくなってしまうのかもしれない。（そういえば、現在進行形である「愛知トリエンナーレ」の問題もどこか構造が似ているように感じる。）

グretaさんのこうした発言の中でも、ひとときわ際立ったのが「私たちは絶滅にさしかかっているのに、あなたたちが話すのは金と永遠の経済成長というおとぎ話だけ」「若者たちはあなたたちの裏切り行為に気づき始めている」という言葉だ。まさしく、現代社会の私たちをがんじがらめにしている鎖が「金と永遠の経済成長というおとぎ話」なのだ。その欺瞞に気づき始めていても、そこから逃れる術を私たちは知らない。

暴走する自由主義経済

戦後の冷戦体制下では、東西陣営の政治体制の対立と、科学の発展競争が繰り返された。そして、西側自由主義陣営が経済発展に勝利し、冷戦は終結した。経済発展が民主主義を進展させ、人々に潤いをもたらすと信じる時代が訪れた。だが、より経済の発展を促す「新自由主義」によって経済のグローバル化が進むと、富の集中が始まり、貧富の格差は世界的に広がり、



偏った社会構造は、民主主義の根幹である公平性をゆがめ始めた。まさしく「暴走する自由主義経済」を止める手立ては今は見つかっていない。環境問題の解決への道のりが遠いのも、この「暴走」を止められないからだ。

そして何よりもつらく感じるのは、私たちが関わる教育の世界も、この「暴走する自由主義経済」を支える役割を、このところはっきりと担い始めていることだ。私たちが子どもたちに伝える「幸せ」は、この「暴走する自由主義経済」での成功者としてのイメージしか持ち得ていないのだ。そして成功者以外には、敗者の位置しか与えられない。そんな仕組みを教育が支えていることにうすうす気がついて、「それ以外のイメージや理念」を語れないで来ているのが現実だ。だから、グレタさんの言葉が刺さってくる。

科学は何のためにあるのか

科学は人間の生活を支え、豊かにするものと信じられていた。しかし、今はどうだろうか。「科学の火」と呼ばれた原子力は、人類の生存さえ危うくし、AIの技術は人間を超え、人々から多くの仕事を奪うと言われている。こうした不安は徐々に現実のものとなり始めた。いったい科学は「誰のために」発展しようとしているのか。

「若者たちはあなたたちの裏切り行為に気づき始めている」とグレタさんは言う。実際に一人で環境保護の意思表示のためにストライキを始めた彼女をまっ先に受け入れ行動を始めたのは、世界の高校生や大学生などの若者たちであることはよく知られている。今でもヨーロッパの国のあちらこちらでグレタさんの声に応えるべく、多くの若者たちが抗議のデモをくり広げている。

私たち大人も、大人としての責任を取るべく「金と永遠の経済成長というおとぎ話」以外の話を語れるような努力を、しっかりとしなければならぬ時がやってきているのだ。そのためには、私たちはお互いの知恵を集めて話し合い、そして行動しなければならない。今、若者や子どもたちからためされているのだから。

叱られて、苦笑いしている暇はない。



これらからのEd.ベンチャーの学習会

詳しくはHPをご覧ください！

◆授業研究会 @大和市文化創造拠点シリウス

11月19日(火)19:00~21:00 授業実践報告会

12月10日(火)19:00~21:00 意見交換会「かわり合いのなかで思考が見える授業とは」

◆ママ・パパのための学習会 @大和市文化創造拠点シリウス

10月27日(日)14:00~15:30 学習会「育児に関する休業制度について」(仮)

講師:鈴木広美氏(大和市小学校事務職員)

11月24日(日)10:00~12:00 地域・社会・学校 つながりから見える可能性

講師:館合館合みち子(NPO法人 しんちゃんハウス理事長)

◆理論学習会 @大和市文化創造拠点シリウス

11月11日(月)19:00~21:00 講師:今井伸氏(田園調布学園大学教授)

「社会保障制度から考える～今とこれからをどう生きるか～」(仮)

◆特別支援教育のための学習会 場所未定(近くなりましたらHPでご確認ください)

11月16日(土)10:00~12:00 「障がい当事者に話を聞こう」

◆教育相談事業提供の外国人の子ども理解のための事例研究会

※子どもの視点から持ち寄った事例を検討します

11月2日(土)13:30~15:30 @大和市文化創造拠点シリウス

11月20日(水)19:00~21:00 @大和市市民活動拠点ベテルギウス



【理事の一言】年老いた母と買い物に出かける機会が増えた。足腰が弱くなってしまった母の歩くペースは、彼女が若かった頃と比べると格段に遅く、足下も危うい。そんな母と一緒に歩いていると、世の中のスピードが本当に早いこと、店や街のつくりが残酷なまでに健常者を前提としていることに気がつかされる。手が届かないところまで商品が並び、レジ待ちの長い行列に並ばされ、それが嫌ならセルフレジ。急かされ、買わされ、並ばされ、買い物が終わるといつも母はぐったりしている。もっと世の中が根本的なところで優しくなってくれないものだろうか……。(TH)